ウルグアイに転住してきた日本人移民―語りにみる定着の背景―

Japanese Immigrants in Uruguay: Backgrounds to Settling in the Country as Seen in Their Narratives

馬場由美子（愛知県立大学大学院国際文化研究科博士後期課程）
Baba, Yumiko (Aichi Prefectural University Graduate School of International Cultural Studies)

キーワード：ウルグアイ、日本人、移民、転住

1. 背景と目的

移民はより良い暮らしを求めて他国へ渡り、時に転住を経験し、定着に至る。疑似家族としてブラジルに集団移民した日本人は「同航移民」として連帯感を培い、後に独立自営農となってエスニックな地域共同体を形成した（前山、1996）。戦前に農民としてアルゼンチンに入植した日本人は都市部に転住して自営業やサービス業に就き、県人会を組織し、日本から親類縁者ら同郷の移民希望者を呼び寄せたことから「連鎖移民」が始まった（小那覇、1999）。

1908 年、ウルグアイに入国した「最初の日本人移民」坪田静仁はアルゼンチンから転住した商業者であった（馬場、2019）。ウルグアイは戦前戦後とも日本政府の計画移民（集団移住）を経験せず、坪田のような商業者や、個人単位で国境を越えてイタリア系ら先住移民の花卉栽培園に入植したケースがみられ（馬場、2019）、近隣国からの転住者が 7 割を占めた時期もあった（国際協力事業団、1989）。現在、ウルグアイの日本人移民（一世）と子孫は推定 350 人（海外日系人協会、2022）と極めて少数であり、100 年余にわたって小規模の日系コミュニティを形成してきた。

本報告ではウルグアイの移民政策を概観し、日本人移民の語りを参照しつつ、彼らが小国ウルグアイに転住し、帰着した背景を、人の移動と定着の過程という視点から明らかにしていく。

2. 調査方法

日本人のウルグアイ移民に関する資料を精査した。報告者は 2024 年 3 月 27 日から 82 日間、現地に滞在し、1950～60 年代に南米へ移民した一世 6 人に半構造化インタビューを行った。

3. 考察

1). ウルグアイの移民政策と日本人移民

ウルグアイは 1825 年の独立後、欧州移民を誘致する一方、1890 年の改正移民法によりアジア系移民を排除した。しかし実態は前述のとおり、日本人が流入していた。ブラジルが国土開拓に日本人を活用した例に倣い、ウルグアイでも 1933 年、ナバーロ副大統領（当時）が日本人移民 100 家族の誘致案を提出して合法化を目論んだが、太平洋戦争開戦で頓挫した(馬場、2019)。

1951 年の日ウ国交回復後はウルグアイも日本の農業実習生を合法的に受け入れた。「花嫁移民」や「呼び寄せ移民」も加わり、日本人会は 1967 年に「第四次」として再始動した。

2). 定着の背景

報告者は一世が「ウルグアイでは居住権が簡単に取れる」と語る場面に何度も遭遇した。実際、「ウルグアイ政府は、移住者の受入れ先に信頼性があれば、基本的に職業を問わず受け入れている」「観光査証で入国して、その後、身分証明書の発給を受けることにより居住権が取得できる」（国際協力事業団、1989）とする記録もある。現在は出生証明書を提出し国民 ID 証明局での面談を経れば、居住権証（Cédula de Identidad）の取得が可能である（Municipios de Uruguay, 2024）。

一世たちは調査の中で、転住の理由について、最初の移民国での暮らしに不満であり、ウルグアイは未知であったが転職先がたまたまウルグアイであったこと、頼った日本人がウルグアイ在住であったことを挙げた。偶発的な転住先となったものの、入国後は容易に居住権が得られ、定着につながったと推察できる。他の理由としては「自然が豊か」「天災がない」「差別を受けない」、首都モンテビデオは社会インフラが整備されており「居心地がよい」という声も複数あった。

4. 結論

ウルグアイに転住してきた日本人は、南米移民の夢はかなえたものの、より良い職を求めて、あるいは過酷な集団移民の生活から脱け出したいという背景を持っていた。彼らを定着に向かわせた要因はウルグアイでの居住権の獲得であった。社会の安定性、日本人に対する差別がないこと、天災が少ないといった環境要因も、彼ら彼女らの定着を促進したことが明らかになった。

ウルグアイの人種構成は欧州系 90%、欧州系と先住民の混血 8%、アフリカ系 2%である（Koolhaas. Nathan, 2013）。「ウルグアイは『船から降りた人々』によって建国された、という一般的な考えがある」（Arocena, 2009）という通念が、移民に対して門戸を開く社会を維持してきたとも言える。今後はウルグアイの移民施策の精査に加え、他国のコミュニティにも焦点を当てたい。

主要参考文献

小那覇セシリア, 1999,「ブエノスアイレス市における戦前日本人の適応過程に関する一考察」『琉球大学法文学部人間科学科紀要　人間科学』琉球大学法文学部, pp120-121.

国際協力事業団, 1989,『ウルグァイ日系人調査報告書』国際協力事業団, p22.

在ウルグアイ日本人会, 2019,『ウルグアイ　日系人の歩み』在ウルグアイ日本人会, p190.

馬場由美子, 2019,「アジア人移民の入国を禁じていたウルグアイ　それでもやってきた『自由移民』の日本人たち」『ウルグアイ　日系人の歩み』在ウルグアイ日本人会移住史編集委員会, p150.

———, 2019,「ウルグアイ人政治家と日本人移住合法化に尽力　農業移民・中村正介の悲願、日米開戦で潰える」同上, p152.

前山隆, 1996,『エスニシティとブラジル日系人』御茶ノ水書房, pp119-122.

Arocena, Felipe, 2009, “How Immigrants Have Shapped Uruguay,” *Culturales* Enero-Junio de 2009, 5(9), p108.

Koolhaas and Nathan, 2013, “ Cuadro 13. Distribución porcentual de población inmigrante por ascendencia étnico-racial, según país de nacimiento,” *Inmigrantes Internacionales y Retornados en Uruguay: Magunitudy Caracte-rísticas,* 2011, Instituto Nacional de Estadística.

Municipios de Uruguay, 2024, “Cómo solicitar la Cédula de Identidad Uruguaya” https://www.municipio.uy/cedula-de-identidad.html （最終閲覧年月日：2024 年 10 月 8 日）